令和７年度 吹田市乳がん検診精度管理委員会 要旨

1 開催日時

令和８年２月14日(土) 午後２時00分から午後３時00分まで

2 開催方法

「ZOOMミーティング」を用いた対面とWeb開催(事務局:吹田市成人保健課)

3 出席委員(順不同)

辻井健一 委員　山本和美 委員　吉岡節子 委員　佐藤七夕子 委員　北條茂幸 委員
吉岡泰彦 委員　古川順康 委員　川西克幸 委員　濱田未佳 委員　松林恵介 委員

4 欠席委員

なし

5 市出席者

健康医療部成人保健課
古田課長　川見主幹　谷内主査　鈴木主任　古賀係員

6 内容

(1)委員紹介・事務局紹介

(2)委員長の選出

吉岡委員に決定。

(3)報告事項

ア 令和７年度 吹田市乳がん検診実施状況について【資料1、参考資料1】

A委員

要精検率が少し高いということは、発見はできている状況。比較読影を徹底し、落とせるものは落としていくことが必要。

イ 令和６年度 乳がん検診チェックリスト集計結果について【資料2-1】【資料2-2】

A委員

撮影者の資格についてはクリアしていただき、撮影のポジショニング等の腕前を上げていただくしかないと思う。是非とも資格を取っていただきたい。

(4)その他意見交換

A委員

資料1で事務局より報告があった通り、受診してほしい層の40歳から69歳の受診者数が今減少している状況が見られる。受診率向上に関して、各委員の先生方の医療機関での受診者の受け入れ状況等を伺いたい。

B 委員

65 歳以上ぐらいがほとんどで、40 歳代はほとんど来ない。まだ枠に余裕はある。

C 委員

大体 1 日 6 人、週 2 回でほぼ埋まっているような状況。視触診だけじゃなく他院からの撮影も受付しているので、撮影の件数はわからないが、視触診は割と埋まっていると思う。

事務局

令和 5 年度から 6 年度にかけて実施医療機関が 2 か所減った影響もあるかと思うが、受診してほしい層である 40 歳から 69 歳で、半年間で 500 人程度減っているという状況は市として憂いている。協力医療機関の方で受け入れ人数を増やしていっていただきたいと考えているが、困っていること、こうすれば受け入れ人数が増えるのではといった意見を聞かせていただきたい。

A 委員

C 先生、病院で視触診を辞めると受け入れ人数が増やせそうか。

C 委員

それはあまり関係ない。技師の撮影の枠になるので放射線科の技師との相談になると思う。増やせるか増やせないかはわからない。

受診者が減っている件について、一度検診を受けて、例えば嚢胞とか良性腫瘍の場合は終了になるが、それでもまた検診を受けると毎回要精検に回ってしまうため、保険診療で受診される方がいる。減っている中の一部に入っている可能性はあるかもしれない。

A 委員

比較読影すればまた解決することかもしれない。過去症例から検討してみたい。

事務局

視触診のみを実施している医療機関が 24 か所、視触診とマンモの両方を実施している医療機関が 9 か所。視触診をのみを実施している医療機関から検診を受けている受診者が大体 4 人に 1 人ぐらいいる状況。視触診とマンモグラフィを同時に受診できる医療機関で受診している方がやや若い年齢層であることも分かった。

経過観察の方が受診を控えるというような状況はあるかもしれないが、初回の受診者が減っている状況もあり、まずは市として、乳がん検診の必要性を様々な事業を通して啓発し、初めて受ける方を増やしていきたい。

A 委員

受診率向上や枠を増やすことについてはできることをどんどんしていくしかない。

D 委員

働いている方が多いので、職域の検診で乳がん検診を受けている方が最近多い印象。協会けんぽ加入者の乳がん検診を大阪府市町村別に出している資料だと、吹田市は令和 5 年度 1341 人。市町村のがん検診はおそらく多分どこの市も減っており、頭打ちでは。必ず全員がん検診自体を受診していないというわけではないというのが印象。

A 委員

受診率以外について、感想や助言があればお願いしたい。

D 委員

要精検率が少し高い医療機関が一つある。要精検率は低下傾向にあるので落とすべきものを落とすという意識でやっていただければよいのでは。

A 委員

新たに開業された医療機関はがんが見つかりやすい傾向がある。初回受診者がとても多く、今まで見つかっていなかった方を掘り起こしている。間もなく落ち着くと思う。

(5)事務局からの検討・連絡事項【参考資料 2】【情報提供資料】

事務局

1 点目、受診票の問診項目にも記載がある通り、「豊胸手術を受けた・ペースメーカー装着・V-P シャント施行・前胸部 C-V ポート等医療機器の体内留置」いずれかに該当する場合は、片胸の検査が実施可能と判断した場合であっても吹田市乳がん検診の適応外となるため注意してほしい。
2 点目、情報提供資料として配付している通り、厚生労働省からの情報提供を参考にしてほしい。
3 点目、受診者への結果返却が遅れることが無いよう迅速な読影や処理をお願いしたい。また、要精検者の精検予約はできるだけ早い日程で取れるように調整をお願いしたい。

A 委員

精検受診予約の件だが、済生会千里病院で撮影をして要精密検査になった方は、1 回説明を聞きに来るという手順を踏んでいるのか。いきなり精密検査外来の予約を取る形になるか。

C 委員

マンモグラフィの所見をふまえて要精検の理由を説明した上で、その場で精密検査に行ってもらう流れ。

A 委員

かかりつけ医では 1 回来てもらって説明して後日精密検査という段取りであるが、病院ではそのまま精密検査の外来に行っていただく形が市民には親切だと思う。精密検査ができる施設はいき

なり精密検査の予約を行ってもよいか。

事務局

クリニック等で一次検診を受けられた場合は、紹介先を患者様と相談して決めていただくため、一旦説明いただいた上で精密検査機関を紹介いただく流れになる。精検を実施できる医療機関で一次検診を受けられた場合は、結果説明と精密検査を同日で実施していただいて結構である。

D 委員

受診率向上について、クーポン等は発行されているか。

事務局

乳がんに限らず全部のがん検診について、吹田市では受診者全員にクーポンを毎年発行はしていない。初めてがん検診の対象になった方には通知を送っている。その他は過去に受診履歴のある方など一定条件を満たした方に送っている状況。

D 委員

クーポンも一時的なものでそれが継続することは難しいかもしれないが、大阪市は万博でクーポンを配ることで増えていた。40、50 歳などの節目できっかけづくりができるとよい。

事務局

人間ドックや職域で受診される方も多くなっているという状況は認識している。一律にクーポンを送るというよりかは、対象年齢の方や本当に知って欲しい年齢層の人にきちんと届けられるような周知方法を検討していきたい。

A 委員

アメリカのガイドラインでは金銭的な援助をしても増えないと書いてあるが、最近の学会の報告では受診しない理由が金銭的な障害というのが1位2位に上がってきており昔と変わってきている。受診料も検討できる事項かと思う。

― 終了 ―